



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 16 1 2 3 4 5

始



手稿
116
686

融 内 卷之四ノ五

此曲前ハ開カニ確リト後ハ淀ミナクサラリト譲フベシ

役別

ワキ

旅僧(上リ僧)

前シテ

老翁

季

八月

源融大臣

後シテ

後シテ

8

内交

類別

五番目

震

京都下京六条河原院

装束附

ワキ

角帽子

着附無地熨斗目

水衣

腰帶

扇

珠数

前シテ

面笑尉(朝倉尉ニモ)

尉髮

着附無地熨斗目

茶水衣

腰帶

後シテ

腰袋

襟帷

尉扇指

田子肩上ゲ

二枚表

面中将

初冠纓

着附赤地縫箔

單狩衣

込大口

指貫

一枚裏

腰帶

襟浅黄

扇持

是ハ東國方ナリ名乗ハ開カニ「今日たゞ」下歌モ開カニ「千里も同」
シ開ナル心「足よ」ト崩ス「夕をと重ね」上歌ハサラリメニ「都」
一声越ニ段「月も早」ト開カニ寂ヲ持テ譲ヒ出シ段々運ビラ付ケテ「は奥乃」
サシハサラリメニ「月も都凡」最中「」ト開ナル心「秋ハ身も既」
受ケテ譲ヒ出シ「老重」
老重アテ「徳白聲」ト開ナル心「」
「」上歌ヨリ確リト我

二行表裏

身乃よと海うかはるト開ナル心「邊則衣」ヨリ元へ庚シ浦わ乃秋の夕され
返シ開ナル心ニテ謡フベシ

御すみ是所扇殿「サラリト」うんばせおれ邊波え「ト氣ヲ受ケ開カニ」
だやあトサラリト「あら何ともあやし此詞ハ運シテ「相対シ」ト氣ヲ替ヘ況
みをばち奈「ワキハサラリト」河原邊え「ト氣ヲ受ケテ「船」の大臣「ヨリ氣ヲ盡
へ名す湯きなむ」ヨリカシテ「邊波」とあどおぼうぬぞや「ト開ナル心」
奥乃「ワキハサラリト」うんばあれうそ難が傍びよ「ト氣ヲ受ケテ開カニ」
ト下ト
リ軽ウ心付キタル様ニ同社ゆくろ「ト難シテ」
ト難シテ「舟」乃ちくひぞや「ワキハサラリト」
ト船舟よ歸るヨリカツテ「恩」もうちきく「ト開ナル心」
けと只今之面あひき
たレト氣ヲ變ヘテシカル氣味ニ謡ヒ「鳥」ハ宿毛浦中れ樹「トカツテ」僧ハたゞく月
下ノ門「ワキハサラリト」
おも「たゞくも」ト互ニ詰メ「古人」ノ心「ト開ナル心」今自
乃秋言ふなり「トシテワキ二人ニテ開カニ謡フベシ

五行表

朝やいよ一「モ月」
風も立ありや「ト心持シ露霧の笠顛の傍がくき」
ト開ナル心「さざ波も立渡り」
元へ庚シ「ちづ浦わぬ海めん」返シ開ナル心
塙ゲ海乃浦を都の中「サラリト」
彼の市津乃浦「ト氣ヲ變ヘテ」是ヨリウシサラリミニ「便」
きくも「ヨリ又氣ヲ變ヘテ塙と成る」ト抑ヘメニ「池邊」
テ物淋シキ様ニ聞る計あり「ト少シ緩メ」
されば手も「ヨリ別ニ出デ」貫之も你
をくわ「ト開ナル心ナリ此處進シテ謡フハ悪シ、

三行表裏

身や旅むきぐ「地」ハ受ケテシツトリト「浦淋翁」
え「ト心持テ」
ちくも「ヨリウシサラリミニ「だらう音寒」
付ケ調子控ヘ高クナラヌ様「あちの」鳴バクアリヒ「ト」茲ハ心持ヲ
めタス耐殿「是ヨリ名所教」懸合ワキハサラリトシテハ受ケテ謡ヒ「向誦々々氣ノ抜ケ
ス様ニ謡ヒ「傳」のく開乃てあたまく「ヨリ深草山」
本情山伏見の竹田「此地」ハ前ヲ受ケサラリト付ケ淀鳥羽モみくすりや「ト開ナル心
塙めやくロシギ地ハサラリトシテハ開カニ謡フベシ「置」山も見えた「ヨリ漸々運
テ」
ト受ケ「忘」きたり「秋」の物乃レトタツブリト「長」物信ふ「あ」や「ト開ナル心」
ヨリ庚シテサフリト「塙」
曼珠うう紀「拾」きく「ト運」ビメニ「疎」そらせ「開」よき「ト開シ開
ナル心ニテ謡フベシ此所ニテシテハ中入スル

六行表

めタス耐殿「是ヨリウシサラリミニ「便」
きくも「ヨリ又氣ヲ變ヘテ」
ト抑ヘメニ「池邊」
テ物淋シキ様ニ聞る計あり「ト少シ緩メ」
されば手も「ヨリ別ニ出デ」貫之も你
をくわ「ト開ナル心ナリ此處進シテ謡フハ悪シ、

七行表裏

身や旅むきぐ「地」ハ受ケテシツトリト「浦淋翁」
え「ト心持テ」
ちくも「ヨリウシサラリミニ「だらう音寒」
付ケ調子控ヘ高クナラヌ様「あちの」鳴バクアリヒ「ト」茲ハ心持ヲ
めタス耐殿「是ヨリ名所教」懸合ワキハサラリトシテハ受ケテ謡ヒ「向誦々々氣ノ抜ケ
ス様ニ謡ヒ「傳」のく開乃てあたまく「ヨリ深草山」
本情山伏見の竹田「此地」ハ前ヲ受ケサラリト付ケ淀鳥羽モみくすりや「ト開ナル心
塙めやくロシギ地ハサラリトシテハ開カニ謡フベシ「置」山も見えた「ヨリ漸々運
テ」
ト受ケ「忘」きたり「秋」の物乃レトタツブリト「長」物信ふ「あ」や「ト開ナル心」
ヨリ庚シテサフリト「塙」
曼珠うう紀「拾」きく「ト運」ビメニ「疎」そらせ「開」よき「ト開シ開
ナル心ニテ謡フベシ此所ニテシテハ中入スル

八行表裏

身や旅むきぐ「地」ハ受ケテシツトリト「浦淋翁」
え「ト心持テ」
ちくも「ヨリウシサラリミニ「便」
きくも「ヨリ又氣ヲ變ヘテ」
ト抑ヘメニ「池邊」
テ物淋シキ様ニ聞る計あり「ト少シ緩メ」
されば手も「ヨリ別ニ出デ」貫之も你
をくわ「ト開ナル心ナリ此處進シテ謡フハ悪シ、

九行表裏

身や旅むきぐ「地」ハ受ケテシツトリト「浦淋翁」
え「ト心持テ」
ちくも「ヨリウシサラリミニ「便」
きくも「ヨリ又氣ヲ變ヘテ」
ト抑ヘメニ「池邊」
テ物淋シキ様ニ聞る計あり「ト少シ緩メ」
されば手も「ヨリ別ニ出デ」貫之も你
をくわ「ト開ナル心ナリ此處進シテ謡フハ悪シ、

早舞五段

身や旅むきぐ「地」ハ受ケテシツトリト「浦淋翁」
え「ト心持テ」
ちくも「ヨリウシサラリミニ「便」
きくも「ヨリ又氣ヲ變ヘテ」
ト抑ヘメニ「池邊」
テ物淋シキ様ニ聞る計あり「ト少シ緩メ」
されば手も「ヨリ別ニ出デ」貫之も你
をくわ「ト開ナル心ナリ此處進シテ謡フハ悪シ、

小書

寃

今合返

折ノ舞

脇留

早朝

融

是川東國方より出たる僧みて作
我東都をまづ。往よ。此度思り立
教よ。うりし。うり。うつ。うづ。あひへ
雪よ。一列。アラ。ガウ。一列。アラ。ガウ。
母路と。海。山と。え。が。雲
も。同。じ。漫。み。
さ。と。の。ウ。上。あ。だ。ラ。一。ア。シ。一。ヤ。ミ。三。平。
宿のうち。ゆ。も。重。あ。う。シ。ウ。ウ。ウ。ウ。

て發^ハは早^ハく^ミ爲^ハまきり^ミ
種^モ身^ハも^ヤ都^モも^アく^ル。此^モう
と^バ言^ハ傳^ハ行^ハる院^モ也^ハ。徳^モや^カら
ひ^一見^サざ^ガれ^ト思^ハ。月^モも^リ也^ハ。塩^モ
家^モで^シ鹽^モの^ウ浦^アび^度。氣^モう^レ自^サ
陸^奥の^シ度^ア。あ^まい^ど塩^モま^ア。うら^ニ
て^シ度^ア。若^ハの^シ度^ア。す^レが^タ定^ム。ま^レ

波^モも^アも^ア、吹^キ、霞^モ照^ム月^アと^カぞ
か^きば^こよ^ヒ、秋^の窮^ガ、あ^るぎ^ま
や^うき[、]鹽^モ窟^ア、月^モ都^モ都^モの^シ、^シ、^シ、^シ
下^アれ[、]あ^く、方^モを^既よ。若^ハさ^まあ^うて^ま、^シ
あ^らぐ^ウヤ[、]空^ト、^シ、^シ、^シ
月^ア、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ
松^モ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ
朧^モ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ、^シ

シテ
門脇院を蓋う處の浦^{シテ}より融乃^{オトハシナ}に陸
奥の^{シテ}ある背^ガの塙^カますと勢^{アサ}すよ移^{ウチ}
れ^カる^カ海^イ邊^ヘあ^キバ^ルくよ^ス清^キき^カら
か^んの^カ河^ガ水^{スヰ}もく^カめ^カゆ^カわ^カら
裏^ミ塙^{コト}の浦^{ビザ}人^トが^{シホ}塙^カと^{シホ}あ^はぼ^ト
ゆ^クや^{シホ}陸^{シテ}奥^{シテ}のちうの塙^{シホ}竈^{ガヤ}と^{シホ}儀^カ
都^{シテ}の^{シテ}よ後^{ウツ}あれ^カる^カ家^カの^{シテ}儀^カ

あきあらが離マガキが鳴マガキう 乃シテはる
籠カブトつ鳴マガキよ融オ大タバ臣ミツ常ヒサシ立タケルみとよ
立ちれ。所シテ酒シテ宴イフのア森マツ移シテ可シ
アガヤ。月シテ松マツ山マツ人ノ伴シテ 実シテ月シテ山マツ
くらや。うまづシテ鳴マガキの森マツの梢シテ鳥シテ
のシテ宿シテ鳴マガキりて。ももんシテ梅シテ月シテ歎シテ迄シテ
をもよ歸シテう。方シテよりうと。思シテ山マツうては

三
何シテ呂シテ今シテ西シテ前シテのシテ。比シテ古シテ僧シテのシテ事シテ。
よもやれシテと。若シテも愛シテ鳴マガキ。或シテや、夜シテ
東シテ風シテ。ゆかシテ木シテ。樹シテ僧シテたシテく。月シテ下シテ
ひシテ下シテれシテも。たシテも。古シテ人のシテ心シテ。
野シテ空シテ。日シテ秋シテ。事シテ。人シテ。月シテ。山シテ。電シテ。浦シテ。河シテ。
竹シテ。人シテ。月シテ。山シテ。電シテ。浦シテ。河シテ。竹シテ。

籠の傍かくわ。左袖三度り。首乃
跡を陸奥。ちうの浦わば。ゆりんや
かくらわとあらん。開
かくらわとあらん。浦を
おの中ようつた。謂はわがうる
御御乃天會は。穿よ。融だ。みちく
乃ちうの浦。ぬ乃。胸。うそ。や。吉。み。が。を
だ。此。あよ。浦。ぬ。う。う。乃。強

波の桂浦。うりも。日毎。湖を。室
室。水。塙。と。焼。き。つ。一。生。汽。遊。乃。便
り。ゆ。ふ。多。き。だ。く。な。が。相。續。て。御。よ
人。も。あ。け。ま。じ。浦。を。其。ま。す。干。塙。と
御。御。浦。よ。ど。水。を。ま。り。冰。の。雨。
あ。り。の。古。ま。ほ。落。ち。り。う。く。松。の。
陰。つ。月。だ。よ。す。ま。で。秋。風。の。音。

め。計あり。されば、すみやも君まことに
煙絶え。塙が風ぬ。うら湫あもみく唐
水。貫之もあづから作。易氣。や深
しき。月乃みみて。塙があつ。浦湫あ
も意もつむ。のせはもあほ。みて。若
の浪もくわや。賢荒音高。や。あ
や。くわくども。歌を。うひもあ

早朝。浦ふ鳥きと。鳴づけり。あり。
や。よ蔚殿。え。わ。た。山。ひ。翁
可。う。て。そ。作。徒。は。と。る。を。寺
皆。る。前。う。て。ん。じ。寺。く。教。よ。べ。先
あ。き。よ。み。く。る。の。音。羽。山。作。か。作
あ。き。秋。音。明。山。よ。音。羽。山。音。よ。ず。つ
達。城。乃。開。つ。あ。よ。と。達。れ。ば。ま。城。室

程まう秋からシテ行フ開ルり、あ
やかに續フ序フきマがああひよリきマが通
坂ハ古音羽ハの寧キよかくシがス通ル
よりハみマるアりリ 早見
がシ山ハ尋ハ代ハがシ前ハとシをシ通ル
語ハりもシあシらハさシす。平ハ中ハ宿ハ
國ハ守ハとシあシす。 早見
松ハ見ハも

ぬよつシてシまシたシる。墨シ林ハの森ハのシうち
それシとシあシる。木シ流ハぎよシす。見シ財シ翁シ乃シ
秋シあれシ。紅葉シも青シいあシる。 早見
言シ行シ雲シのシちシ。梢シも青シい林シのシ色シ
今シこシも秋シよ名シわシれ。雲シが空シだシら
藤シの森林シ。観シるシたシても陰シ青シい林シ。 早見
つシとシのやシよ。 シテ向シきシ秋シなシきシ

早ト
 シテ野々の林に引よもと
 深山よ内山也アの竹田定島翁
 礼もみじや
吉義詠め也あらう空
 白雲のちや暮えしを山乃處も木
 僧くらもたるが山もきよ秋の朝拂
 狐火もくらやか壇乃山もきよ秋の朝拂
上境
 うあらわれとカ物給へや
元ス

きても林之内山房あまきや景づき西
 よみかづ何くぞ秋も早
元ス半
 究松の尾乃風山もみぢり風文
 秋れ夜の空じつあ月歎
元ス月
 壇すもよきて
九院もれ照月よりで
 秋乃よれあづ物語
元スあらまづさわ

塙と泊りどて見持や田子乃浦ありまうら
きの塙夜。ゑめべ月とも神よもち塙
行よ歸る浪舟よがの。若人と夕もつるう
塙雲よかよ御きて跡もしえび隙よぎり
ぬともみきだぬ。ぬよきりゆきは城枕。三、
とひづれを。岩根の床よ良きも
カウ。物も亭物とみやうて。夢寐覺の

旅宿。あくまほシテ上出端
よゆる。浪舟。塙の浦人
ひよひの月を陸奥へ。ちうれ浦。よし
浦。よしよ。其のとみがた。風。食とふ
我。也。泊塙。かき浦。よしよ。つるの
まうら。鳴の松葉。よし。月。よ。あと浮く
月官嚴乃白衣の神。三五夜半。代引

月の色シナちへかくや。とくとくらひ雲の袖マフ
地ヒトトヒトまちや桂カスの桜シダレよ。おととやとちらひ
拂ハラフひ寝ヌメルふもるよ。音ヒメうの浪シテ荒面アラハタニ
白シタツや曲水シカツスの瀧タマツ。おととミタスおみミタスの袖マフ
吉義舞ヒガタあら雨ウヂ向ムカシ遊シテ樂ハラハラ。そも明月アキラカの月中シマツ
よ。また初月ヒツヅク乃ノ霄シマツよ。景シテも姿シマツもく
あり。窮シテや所謂シテあら壁シテ。支シテが歎嘆シテよ。月

寒シテいまシテぬきシテきく。はなシテ歌シテよ。くわうシテだ。六
月シテのシテかシテをシテさシテす。ひうシテもうシテごシテく。あら
青シタツ陽ヒカリのシテまシテのシテ始シテ。はなシテ霞シテしシテか。遠シテ山シテ
地シテ饗シテ乃シテ色シテ。みシテ三シテ月シテのシテ影シテ。とくシテみシテむシテたシテ人シテ
うシテ又シテ水シテ中シテあシテ游シテ魚シテ。かシテ鉤シテと疑シテふ
雲シテアシテかシテ鳥シテ。引シテれシテ陰シテともシテ残シテく。
も降シテらシテ方シテ水シテもシテ下シテり。上シテ鳥シテ。山シテ水シテ也シテ。

179
261

復製不許



訂著作者 觀世元滋
發行兼 印刷者 檜常之
印刷所 江川堂
(電話番号八六二)
京都市上京區三条通麁屋町東北角
(東京市四谷區傳馬町武丁目十九番地
(振替貯金大阪三千六百八番)

大正五年十二月五日印刷
大正五年十二月十一日發行

の樹は宿まし
魚も飛鳥も收まつて
ともあらず秋乃夜空
自鳥もあき
鐘も響きて月もりや
月也雲も月也
方も雲も月也
此も陰も月也
月の都も入らぬ
わからぬ
名残の面影やあらわ
る面影

終

